

羊ヶ丘病院看護部 クリニカルラダー						
定義	レベル	I	II	III	IV	V
	レベルの定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとつての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
ニーズをとらえる力	【レベル目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
	【行動目標】	1.助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	1.自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	1.ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる 2.得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	1.予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる 2.意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	1.複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる 2.ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	【実践例】	【病棟】 1-1□病態生理が理解できる 1-2□解剖生理が理解できる 1-3□入院患者の24時間の全体像を助言を受けながら把握できる 1-4□手術前に必要な検査がわかる 1-5□検査データの異常が助言を受けながらわかる 1-6□OHスケールと疾患によりマットレスを選定できる 【OP】 1-1□疾患を理解し手術介助に必要な情報収集が助言を受けてできる 1-2□術式を理解し手術介助に必要な情報収集が助言を受けてできる 【外来】 1-1□問診票から患者の主訴がわかる 1-2□問診で既往歴・内服薬の情報収集が出来る 【共通】 1-1□患者・家族のプライバシーを守りながら助言を受けて情報収集ができる	【病棟】 1-1□解剖生理が理解でき、情報収集できる 1-2□病態生理が理解でき、情報収集できる 1-3□「患者様情報用紙」を活用し患者の情報収集が単独でできる 1-4□入院患者の24時間の全体像を把握できる 1-5□本人および家族よりアナムネーゼを聴取し情報収集できる 1-6□検査データの異常がわかる 1-7□患者の社会的背景がわかる 1-8□リハビリプログラムがわかり、リハビリの進行状況を把握できる(情報収集できる) 【OP】 1-1□情報をもとに手術に必要な器械・器材の判断を指示のもと準備できる 【外来】 1-1□カルテの内容と問診から患者がなぜ来院したのか理解することが出来る 1-2□問診時に必要な情報を聴取することができる 1-3□主訴から予測されるレントゲンのオーダー入力出来る 【共通】 1-1□不足している情報を他のスタッフから得ることができる	【病棟】 1-1□病態生理をふまえ患者の現在の状態が情報収集できる 1-2□患者の個性をふまえ必要な情報を収集できる 1-3□早期の社会復帰に向けて必要な情報収集ができる 1-4□患者の生活習慣に合わせて、入院や退院後の生活の希望を情報収集できる 【OP】 1-1□患者の個性に合わせて手術に必要な情報収集ができる 2-1□緊急手術時、優先順位を考慮し的確な情報収集ができる 【外来】 1-1□救急車到着時、緊急度を考慮し主訴を的確に情報収集できる 2-1□患者の身体的・精神的状態を把握し、診察の優先度を考慮できる 【共通】 1-1□状況の変化を捉え、情報収集ができ、経験に基づき問題を把握できる 2-1□得られた情報の優先度・緊急度がわかる 1-2,2-2□適切なフィジカルアセスメントができる	【病棟】 1-1□術式によるプロトコルや退院後の生活を予測した上で患者の術後の状態に関する思いや社会復帰にむけた情報収集ができる 1-2□早期の社会復帰にむけ、多面的に情報収集できる 1-3□退院後のリハビリや定期的な通院のための必要事項を情報収集できる 2-1□意図的に収集した情報より、看護の方向性がわかる 【共通】 1-1□予測を持って全側面から必要な情報収集ができる 1-2□説明に対する患者や家族認識と医療者認識とのずれに気づき、追加の説明等調整する 2-1□情報を分析しながら状況を直感的に捉え、系統的に効率よく情報収集できる	【病棟】 1-1□複眼的な視点で迅速に患者の状況を判断し、多様な受け手のニーズの情報が収集できる 1-2□意図的な看護介入のための情報収集ができる 1-3□疾患の予後や治療による影響や退院後の生活を予測し情報収集ができる 1-4□ケアの受け手や家族の価値観をすりあわせ、多角的に情報収集ができる 2-1□治療や退院、社会復帰に向け、ケアの受け手を取り巻く周囲の人々の価値観に応じたケアの必要性が判断できる 【共通】 1-1□複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる 2-1□患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集して患者と家族の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえる 2-2□地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等に働きかけることで解決を図る
看護の核となる実践能力	【レベル目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践できる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	【行動目標】	1.指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる 2.指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる 3.看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	1.ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる 2.ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる 3.ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	1.ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる 2.ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる 3.ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	1.ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる 2.幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	1.ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる 2.複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	【実践例】	【病棟】 1-1□受け持ち患者の看護計画を助言をうけて立案できる 2-1□神経ブロックの必要性を助言をうけて理解し観察ができる 2-2□ドレーン挿入時のドレーン管理を理解できる 2-3□助言をうけて患者に必要な装具を理解できる 2-4□全身麻酔をうけた患者の看護を助言をうけて実践できる 2-5□褥瘡発生のリスクアセスメントと計画を助言をうけて立案できる 3-1□転倒・転落アセスメントシートを理解し助言をうけてチェックできる 【OP】 1-1□受け持ち患者の看護記録を基準に沿って助言をうけ記載できる 1-2□看護計画にそって指導のもと、実践できる 2-1□受け持ち患者の申し送り事項を助言をうけて病棟・外来に伝達できる 3-1□患者情報、看護基準・手順のもとに、助言をうけて物品を準備できる 3-2□手術看護の基本的知識を理解し、助言をうけて実践する・全身・局所麻酔・ブロック・挿管・ランゲルマスク・挿管困難 【外来】 1-1□ギブス/シーネ/牽引/自己血採血の手順を理解・助言を受け実践する 1-2□清潔・不潔を理解し、助言をうけて創処置ができる 2-1□助言をうけて、患者の診察介助ができる 3-1□術前検査(採血項目・スパイロ・胸部XP)、MRI、CTの意味がわかり助言をうけて患者へ説明できる 【共通】 1-1□安全・安全な看護実践が助言をうけて実施できる 2-1□患者の急変や異常時、速やかに先輩看護師・医師に報告できる	【病棟】 1-1□受け持ち患者の看護計画を立案し、看護計画に基づきケアが実践できる 1-2□術式を考えた看護が実践できる ①必要な装具の準備ができ、装具装着時のケアが実践できる ②リハビリ等に向け、疼痛のコントロールの必要性は理解でき実践できる ③ドレーン挿入時を看護が実践できる ④必要に応じたセルフケアのケアを考え実践できる 1-3□全身麻酔を施行した患者の看護が実践できる 2-1□転倒転落アセスメントシートに沿って、アセスメントし、問題点を抽出できる 2-2□褥瘡発生リスクの高い患者の情報をアセスメントし、計画立案する 2-3□必要な情報の収集方法はわかり、情報収集が出来る 3-1□転倒転落リスクの高い患者の看護が実践できる 3-2□患者の状況に合わせた整形特有の技術が実践できる 3-3□支援を得ながら急変時・異常時の看護記録の記載が出来、継続ができる 【OP】 1-1□患者の状態と術式の特徴に合わせて安全に器械出し看護ができる 1-2□指導のもと手術看護に必要な基本的知識・技術・態度を身につけることができる 1-3□定められたガイドラインに沿って、外回り看護・器械出し看護が安全確実にできる 1-4□看護計画に沿って実践できる 2-1□手術チームメンバーの一員として自分の役割と責任を果たせる 3-1□問題を病棟・外来看護師に申し送ることができる 3-2□手術の進行・患者の状態変化に合わせて実践できる 【外来】 1-1□ギブス/シーネ/牽引/自己血採血の手順を理解して実践する 1-2□清潔・不潔を理解し、創処置を行うことができる 2-1□診察介助を安全に行うことができる 3-1□術前に必要な検査の項目・意味を理解し手順に沿って施行できる 【共通】 1-1□医師の指示のもと適切な処置を施行できる 2-1□患者の急変や異常時に支援を得ながら対応できる 3-2□個性をふまえた安全・安全な看護実践ができる	【病棟】 1-1□患者の個性を踏まえた援助が実践できる 1-2□問題点を考えた上で必要な援助を抽出しケアが実践できる 1-3□褥瘡・創の状態を観察し、状態に合わせた処置が行える 1-4□患者の状態を考え、整形特有の看護技術が実践できる 2-1□患者の個性を踏まえたケアの工夫ができる 【OP】 1-1□術中の急変時に術野の状態を判断し変化に応じ必要な器材、器具、材料の準備ができる 1-2□手術の進行を予測した器械出し看護ができる 3-1□重症かつ複雑な疾患、術式で起こりうる患者の変化を予測し、準備ができる 2-1□急変時、術野の状態を判断し変化に応じた介助ができる 【外来】 2-1□観察を的確に行い、自己血採血時の急変時に備えたケアができる 3-1□診察介助時に事前にカルテから情報収集し、処置の準備ができる 【共通】 1-1□患者の状態変化に応じてアセスメントし問題を追加、情報収集し看護の工夫ができる 1-2,3-1□急変時は落ち着いて対応し、家族等に配慮することができる	【病棟】 1-1□患者のニーズをとらえ総合的に判断して個性を考えた適切なケアが実践できる 1-2□チーム内の看護過程の展開がスムーズに進むように指導的な関わりが持てる 2-1□総合的な視点で患者を捉え、課題やリスクを予測した看護ができる 【OP】 1-1□手術の進行状況の変化に応じた器械出し看護が正確迅速にできる 2-1□手術看護に必要な知識、技術を効果的に学習することができる 2-2□手術室における事故防止対策を管理者と共に手術チームメンバーに指導的に関わることができる 【外来】 1-1□患者家族の思いと治療方針を理解し、診察介助を行うことができる 2-1□自己血採血時の急変時にも迅速に対応できる 2-2□救急車到着時、迅速に対応し、患者、家族に配慮することができる 2-3□基礎疾患のリスクをアセスメントができ、安全に手術するための入院前調整と他部署とのスムーズな連携ができる 【共通】 2-1□教育的な能力を養うことができる 2-2□急変時には、原因や今後の予測をしながら、患者・家族対応、今後のフォロー体制をつくることができる	【病棟】 1-1□患者の複雑なニーズに対応し、創意工夫しチームとして看護の実践評価できる 1-2□複雑な問題をアセスメントし、看護が展開できる 1-3□最善の実践に向けて医療チームメンバーとディスカッションし、看護計画立案・実践および評価ができる 2-1□多重課題をもった複雑な問題をアセスメントし最善の看護を選択できる 【共通】 1-1,2-1□偶発的出来事に速やかに対応でき、発生する問題を予測し、予防的に対応できる 2-2□ケアの継続性にむけた活動を推進する 1-2,2-3□複雑な状況、背景の患者の最適なケアを判断・実践できる

羊ヶ丘病院看護部 クリニカルラダー						
定義	レベル	I	II	III	IV	V
	レベルの定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	【レベル目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	【行動目標】	1.助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる 2.助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる 3.助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集できる 4.ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる 5.連絡・報告・相談ができる	1.ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる 2.関係者と密にコミュニケーションを取ることができる 3.看護の展開に必要な関係者を特定できる 4.看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	1.ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる 2.ケアの受け手とケアについて意見交換できる 3.積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	1.ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる 2.多職種間の連携が機能するように調整できる 3.多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	1.複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる 2.多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる 3.関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる
	【実践例】	【病棟】 2-1,5-1□助言をうけて看護チームに情報を提供出来る 1-1,3-1□病棟カンファレンスに参加し助言をうけて情報を提供できる 3-1,4-1□助言を受け、リハビリ等他部門との情報共有出来る 【OP】 1-1□助言を受けて、手術室ミーティングで患者情報を提供できる 【外来】 1-1,5-1□助言を受けて、問診情報を医師、スタッフに報告・相談できる 1-1□助言を受けて、入院時、病棟スタッフに情報が提供できる	【病棟】 1-1,2-1□リハビリスタッフに必要な情報が提供できる 1-2,2-2□現在のADLの状況についてリハビリより情報収集できる 3-1□看護の実践にむけ、連携が必要な他職種がわかる 4-1□医師・リハビリ・MSW等と情報交換できる 【OP】 1-1□手術チームの一員として情報を共有する事が出来る 【外来】 1-1□問診で患者家族の訴えを受け止め、必要な情報を医師および他のスタッフに提供できる 【共通】 1-1□日々の看護ケアを他のスタッフと協働し指導のもと行うことが出来る 2-1□患者に関わる他職種の役割を理解し、必要に応じて他職種の協力の必要性に気づくことが出来る 4-1□問題発生時適切な部署に相談し、関係者と問題を共有できる	【病棟】 1-1,2-1□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するため、本人および取り巻く家族や周囲の人々と協力しあいながら、多職種連携を進めることができる 3-1□退院及び早期の社会復帰にむけ、多職種に協力を求められる 【外来】 1-1□検査時には、患者情報をふまえ、注意事項を事前に情報提供できる 3-1□薬剤科と術前患者の服薬に関わる情報提供し、問題点を共有できる 【共通】 1-1□積極的に看護師同士で情報を提供し、共有できる 1-2,3-2□看護上の問題を患者に関わる医療チームメンバーと共有出来る 1-3,3-4□タイミングを逃さずカンファレンスに提案できる 2-1,3-3□患者の個別的なニーズに対応するため、他職種とタイムリーに連携出来る	【病棟】 1-1□退院支援において、退院後の生活を考えた資源の活用がわかる 2-1□他職種の連携にて患者を取り巻く他職種の役割を理解し効果的に発揮できるよう調整できる 3-1□リハビリカンファレンス、退院支援会議、病棟カンファレンスで、多職種の活力が維持・向上させる関わりができる 【外来】 1-1□他病院紹介時、MSWと協力し患者のニーズに応える事が出来る 2-1□緊急入院時、患者のニーズを理解し他職種を情報を共有できる 【共通】 1-1,2-1□多職種間の連携がスムーズにいくように調整できる 3-1□医療チームのメンバーと看護上の問題点、共通する課題を共有できる	【共通】 1-1,2-1□他職種との連携に置いて、病院内にとどまらず、病院外との調整が出来る 1-2,3-2□看護チーム内で看護師が効果的に役割を発揮できるように調整出来る 3-1□土日等師長不在時、他部署と連携できる 4-1□チームの目標を明確にし問題解決のため、スタッフや他職種との調整をして問題を解決できる
意思決定を支える力	【レベル目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	【行動目標】	1.助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	1.ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる 2.確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	1.ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる 2.ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる 3.ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	1.ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	1.適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる 2.法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
	【実践例】	【病棟】 1-1□助言をうけて、退院支援スクリーニングアセスメントシートを記載できる 【OP】 1-1□術前訪問で、患者の話を聞きながら患者の思いを把握し先輩看護師、病棟看護師に報告できる 【共通】 1-1□患者・家族より退院後の生活の意向を助言をうけて確認できる	【病棟】 1-1□患者及び家族の思いを聞くことができる 1-2□退院支援看護師にに患者の思いを伝える事ができる。 2-1□患者・家族に対するかかわりを自ら考えできる 【OP】 1-1□術前訪問での情報をアセスメントし個別の問題をあげることができる。 2-1□患者入室時の不安や思いを受け止めながら患者と関わる事ができる。 【共通】 1-1□患者、家族より退院後の生活の意向を確認できる	【病棟】 3-1□退院時のイメージを伝え、退院後の生活の場について意思決定を支える (使用する装具や荷重や自宅での必要な処置) 【OP】 1-1□緊急手術時に患者情報を収集し、迅速に手術室の準備ができる 【共通】 1-1,2-1,3-1□緊急事態の場の状況を読み取り冷静沈着に適切な指示や依頼ができる 1-2,2-1□個別的、かつ優先順位を考慮して課題を明確化できる 3-1□患者・家族の意向、とくに患者の意向を正確に多職種に情報提供する 3-2□療養の場や治療・検査の選択肢の特徴を理解し、患者・家族の意思決定を支える	【共通】 1-1□連携等、患者及び家族の意思決定の調整に参加し、適切なかわりができる 1-2□患者と家族の気持ちを引き出し・自ら考える機会をつくり、幅広い知識から様々な案を提示することで、意思決定プロセスを促進させることができる 1-3□患者・家族、医療者の意向が異なる場合、カンファレンスで調整役を担える 1-4□複雑な意思決定場面において、患者・家族の気持ちに寄り添い続けることができる	【共通】 1-1□患者と家族が自ら決定できた　り考えたりすることができるように積極的に踏み込んで関わるなかで、意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる 1-2□患者と家族の思いは日々変化していることを念頭に、多角的な視点から患者と家族を尊重し寄り添い続けることができる 2-1□複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる